

HQR023-20

会場:303

時間:5月25日 11:30-11:45

## イリ河流域における過去 1000 年間の氷河・氷河流出量変動 Fluctuation of glaciers and glacier runoff in Ili Basin during the last millennium

坂井 亜規子<sup>1\*</sup>, 奈良間 千之<sup>2</sup>, 竹内 望<sup>3</sup>, 藤田 耕史<sup>1</sup>, 窪田 順平<sup>2</sup>  
Akiko Sakai<sup>1\*</sup>, Chiyuki Narama<sup>2</sup>, Nozomu Takeuchi<sup>3</sup>, Koji Fujita<sup>1</sup>, Jumpei Kubota<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 名古屋大学, <sup>2</sup> 総合地球環境学研究所, <sup>3</sup> 千葉大学

<sup>1</sup>Nagoya University, <sup>2</sup>RIHN, <sup>3</sup>Chiba University

イリ流域は中国とカザフスタンにまたがる中央アジアに位置する、広大な流域である。イリ流域の中でも標高の高いのは天山山脈が分布する地域で、氷河が分布しており、氷河からの融解水はイリ河を流れ、バルハシ湖に注ぐ。氷河は流域面積のたった 0.7% を占めるに過ぎないが、標高が高いほど降水量が増加すること、またこの地域の気候は乾燥・半乾燥域にあたり、氷河融解水は夏の乾期でも安定した流量を平野部へ供給することができ、氷河は重要な水資源である。

このように水資源として重要なイリ河流域における氷河からの流出量がどう変動してきたかということは、人間活動に大きな影響を与えてきたと考えられる。そこで、年輪や氷コアなどから得られる気温・降水データを使用し、千年間の氷河変動と氷河流出量変動を再現した。氷河流出の記録は無いが、氷河自体の変動は氷河拡大期にモレーンとして残されている。発表ではモレーンが示す年代と、プロキシから計算した氷河変動を比較し、計算の検証を行う予定である。

キーワード: 氷河, 流出, プロクシー, 年輪, 氷コア

Keywords: glacier, discharge, proxy, tree ring, ice core